史料紹介

森藩史料『慶応三丁卯年知行物成切米切府帳』について

甲斐素純

はじめに

森藩は、久留嶋氏が慶長六年九月玖珠に入部してからできた小藩である。藩主久留嶋氏の先祖は、信濃国（長野県）の村上氏で、いつのころからか伊予国（愛媛県）に移り住み、そこの豪族河野氏に仕えたと言われている。のち村上氏は、来嶋・能島・因島の三家に分かれた。久留嶋氏は、この内の来嶋氏であり、小島「来嶋」（愛媛県今治市の北端現在同市の大字）注①を本拠として勢力を張り、周囲の小豪族を支配下に入れ次第に頭角を表わしていった。慶長五年（一六〇〇）関ケ原の戦が起こると、久留嶋氏は西軍（豊臣方）に加担したため、戦後改易され暫く流浪の生活を余儀なくされた。ゆえに譜代の家臣達もその多くは離散した。しかし徳川家康の側近本多正信や当主久留嶋康親の内室で福島正則の姪である玄興院の関係から、福島正則（当時広島城主）あるいは片桐且元などの肝入りや家臣達のなみなみならぬ協力もあって、慶長六年九月ようやく玖珠・日田・速見三郡に渡って知行地一万四千石を与えられ、玖珠郡森に入部し、無事御家を再興することができたのである。以来二七〇年間十二代久留嶋通靖まで続き、明治四年（一八七一）七月廃藩置県を迎えた。（『大分県史』近世篇一・森藩参照）

この史料は玖珠町大字森七五五番地宮本孝司氏所蔵の文書であり、森藩家臣団の幕末における一種の給料表とも称すべきものである。これによって、当時の家臣達の藩における位置付けや人数・経済的な内容・内訳あるいは森藩の職制の一端が伺われる。また役料米や出入扶持・合力・江戸奥切府・森休息などが記されており、森藩を知るのに非常に便利である。

森藩では、現在この種の「知行物成切米切府帳」が二点あることが知られている。一つはこの慶応三年（一八六七）であり、他の一つは『万延元年（一八六〇）申九月知行物成切米切府帳』（玖珠町大字森下町合原成人氏所蔵）である。この種の物は多数あってしかるべきであるが、この二点と『玖珠郡史』（昭和40年発行）に部分的に紹介している文化八年の知行物成切米切府とがあるのみで、藩制の初期・中期のそれに類する物が現存しないのが残念である。

康親が、慶長六年玖珠入部に際して伴った家臣は三〇余名に過ぎなかったと言われているが、②入部後の久留嶋氏にとっては軍事・行政上からも家臣団の組織・補充は急を要することであった。時代の推移と共に藩制の多様化・細分化に伴って、それにみあった人材・人員が必要であり、かっての旧家臣・譜代の登用や地元玖珠・日田・速見などあるいはその周辺の豊後国や諸国から優秀な人材を新規登用し、また分家や庶子の引き立てもあった。この様にして次第に家臣数も増加し、それに伴ない藩の職制が一通りでき上がるのは、野口喜久雄氏によると寛永末（一六四三）ごろと推測される③とのことである。

久留嶋氏の家臣団の状況を知ることができる貴重な史料に、天明三年（一七八三）の『森藩先祖書』（武石家文書）があるが、これについては『大分県史』に野口氏の分析・紹介があり、前者二点の解説と合わせて詳しく記されている。次に『玖珠郡史』に紹介されている文化八年の知行物成切米切府であるが、同書では要点のみで全文紹介されていないので、その全容が判明せぬままである。文書の所蔵先を著者に確認したところ、旧森小学校の一隅にあった「郷土資料室」でメモした物で、それ以上のことは分からないとのこと。現在この資料室の史資料は所在不明であり、多数の資料類がかってあったとのことで、誠に残念でならない。その所在地をご存知の方は、ぜひご教示をお願いしたい。

これらの切米切府帳ではないが、現在玖珠町大字森の「わらべの館」が管理している物に、『慶応元乙丑年 夏森藩士籍加藤茂篤』（大分市大字羽田三組　加藤木美枝氏所蔵）という史料がある。これは森藩の幕末における家臣団の総数とその位置付け・職制とが判明する貴重な史料である。ここでは紙数の関係でそれぞれの紹介はできないが、これらを合わせ紹介することによって、幕末における森藩の家臣団構成・職制などが判明することと思われる。

最後になったが、本史料を紹介するにあたり県史調査員秦政博氏のご協力を得たことを記し、感謝を申し上げたい。

注 ① 本姓は村上氏であるが、来島を本拠としたため、その名をとって姓とし、「来島」と称した。「久留島」の三文字にしたのは、元和二年（一六一六）からである。―『寛政重修諸家譜』

② 『玖珠郡史』（昭和40年発行）

③ 『大分県史』近世編一森藩

凡例

一、（異筆）「　」で示した箇所は、恐らく後で加筆されたもののようである。墨と朱とが混ざったもので記されている

一、（　）は、筆者の注である。

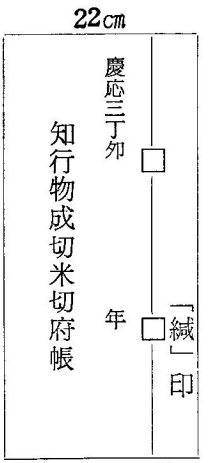
一、旧漢字は、原則として当用漢字に改めた。

一、送り仮名の「者・江・而」などは、わかり易くするために「は・え・て」などの平仮名に改めた。

一、老女「冨貴浦」以下女性の名前については、便宜上平仮名に改めた。

一、表紙には、右とじから約三糎内側に入ったところの上・下二ケ所に、封じ目を示す黒印の篆刻印（緘）が押されている。裏側の表紙には、同じ箇所の真中に一ケ所同じものが押されている。

一、形状



※本文四五枚・表紙二枚

（表紙ウワ書）
「　慶応三丁卯年
知行物成切米切府帳
寄附料　」

一高五拾石　足代式部大夫
（異筆）「足代式部」
右は為祈祷料伊勢え可令神納者也

一高三百石　久留嶋　求　馬
一高百石　帆　足　源三郎
一高百石　宮　野　孫　一
一高百石　嶋　内　蔵之丞
一高百石　浅　川　六郎助
一高百石内三拾石足高　横　山　城　助
一高弐百石　朝　山　孫太郎
一高百石　得　重　直　記
一高百石　朝　山　此　面
一高百石　田　坂　　蔀
一高八拾石　得　能　田　宮

一高八拾石　千　葉　忠左衛門
一高八拾石　小　幡　兵　馬
一高八拾石　加　藤　徳之進
一高八拾石　嶋　貞　之　丞
一高六拾石　佐久間　権之進
一高六拾石　門屋七郎右衛門
一高六拾石　佐久間　豊太郎
一本扶持拾人　大　林　善　惣
一本扶持八人　園　田　　保
一本扶持拾弐人　瀬　口　彦　六
一本扶持拾人　藤　野　伝　司
一本扶持拾人　溝　口　一之丞
一本扶持拾人　吉住奇禄左衛門
一本扶持八人　武　田　外　記
一本扶持八人　大　嶋　順　安
一本扶持八人　生　田土太郎
一本扶持八人　本　田　志津馬
一本扶持八人　西　野　金　助
一本扶持八人　秋　山　発　平
一本扶持八人

一本扶持八人
一本扶持八人
一本扶持八人
一本扶持八人
一本扶持八人
一本扶持八人
一本扶持八人
一本扶持八人
一本扶持八人
一本扶持八人
一米五石
大豆弐石 本扶持弐人
一本扶持八人
一本扶持八人
一本扶持八人
一本扶持三人
高合千九百三拾石
此物成五百七拾九石
内 米三百八拾六石
大豆百九拾三石
但 地勤 三ツ成
旅勤 五歩五厘
本扶持合弐百壱人

（異筆）
荒「荒井勇助」井 勇之助
朝 山 源之進
瀧 原 順之進
原 忠 四 郎
林 又右衛門
財 津 清之丞
佐々木 直之助
水 野 兵 太
帆 足 真 平
佐 藤 怡 哲
嶋 崎 文 叔
木 付 友 貞
玉 井 増次郎

米五石
大豆弐石
一高百石
一高三拾石
高合百三拾石
此物成五拾弐石
内 米三拾四石六斗六升七合
大豆拾七石三斗三升三合
人数弐人
一高五拾石
此物成拾五石
人数壱人
一米拾石
一本扶持弐人
米拾石
本扶持弐人
人数弐人

（異筆）
「人数四拾四人」
人数四拾四人
安 楽 寺
玄 興 院
但四ツ成ニテ
実 相 寺
但三ツ成ニテ
慈 音 院
泉 龍 寺

一米五石大豆弐石　本扶持弐人　浅川六市郎
一米五石大豆弐石　本扶持弐人　得重又之丞
一米五石大豆弐石　右同断　朝山主水
一米五石大豆弐石　右同断　田坂岩尾
一米五石大豆弐石　右同断　門屋七之進
一米五石大豆弐石　右同断　西野小弥太
一米七石大豆三石　本扶持弐人　原口等助
一米七石大豆三石　右同断　江藤友太
一米七石大豆三石　右同断　山口介右衛門
一米五石大豆三石　右同断　井上左門
一米六石大豆三石　右同断　三浦麓
一米五石大豆三石　右同断　四藤勝尾
一米五石大豆三石　右同断　竹田津右馬丞
一米七石大豆三石　右同断　得重孫八
一米五石大豆三石　右同断　喜見百馬
一米五石大豆三石　右同断　山（異筆）「朝山錫之進」錫之進
一米五石大豆三石　右同断　今村才次郎
一米五石大豆三石　右同断　嶋春之丞
一米六石大豆三石　右同断　才木作左衛門
一米五石大豆弐石　右同断　原四郎兵衛
一米五石大豆三石　右同断　永松治左衛門
一米五石大豆三石　右同断　黒川大弐
一米六石大豆三石　右同断　宿利真吾
一米五石大豆三石　右同断　原次郎作
一米五石大豆三石　右同断　藤野速
一米五石大豆三石　本扶持弐人　中野惣八郎
一米五石大豆三石　右同断　伊藤惣兵衛
一米五石大豆三石　右同断　原五郎助
一米五石大豆三石　右同断　諫山養春
一米五石大豆三石　右同断　香見治
一米五石大豆三石　右同断　伊嶋将之進
一米五石大豆三石　右同断　園田董弦
一米五石大豆三石　右同断　小出喜平
一米五石大豆三石　右同断　原清左衛門

一米五石大豆三石　右同断　中野順蔵
一米五石大豆三石　本扶持弐人　長尾官平
一米五石大豆三石　右同断　小野元五郎
一米五石大豆三石　右同断　吉田仲
一米五石大豆三石　右同断　村井順平
一米五石大豆三石　右同断　川部祖平
一米五石大豆三石　右同断　吉田喜代渡
一米五石大豆三石　右同断　諫山吉郎兵衛
一米五石大豆三石　右同断　嶋平八郎
一米五石大豆三石　右同断　新嶋大助
一米五石大豆三石　右同断　二神鉄作
一米五石大豆三石　右同断　若松数馬
一米五石大豆三石　右同断　平松弥七郎
一米五石大豆三石　右同断　足立勝吉
一米五石大豆三石　右同断　今井寿之助
一米五石大豆弐石　右同断　山口隼太
一米五石大豆三石　右同断　秋好格一

（異筆）「新嶋」

一米五石大豆三石　右同断　森田吉太郎
一米五石大豆三石　右同断　高倉弥右衛門
一米五石大豆三石　右同断　麻生要蔵
一米五石大豆三石　右同断　倉成東馬
一米五石大豆三石　本扶持弐人　小野貞一
一米五石大豆三石　右同断　市村李十郎
一米五石大豆三石　右同断　宮野源太
一米五石大豆三石　右同断　若松益之丞
一米五石大豆三石　右同断　御幡平輔
一米五石大豆壱石　右同断　角井豹次郎
一米五石大豆壱石　右同断　安藤門市
一米五石大豆三石　右同断　園田謙吾
一米五石大豆壱石　右同断　矢野重郎
一米五石大豆壱石　右同断　衛藤武熊
一米五石大豆三石　本扶持弐人　野上伝五左衛門
一本扶持弐人　得重保馬
一本扶持弐人　嶋崎鐏叔

米合三百四拾壱石
大豆合百八拾弐石
本扶持合百三拾六人

人数六拾八人

一米五石 大豆弐石 本扶持壱人 女扶持壱人 足立近蔵
一米五石 大豆弐石 右同断 猛野佐十郎
一米五石 大豆弐石 右同断 津村源七
一米五石 大豆弐石 本扶持壱人 女扶持壱人 高崎次郎
一米四石 大豆弐石 本扶持壱人 宿利司馬
一米四石 大豆弐石 右同断 麻生音次
一米五石 大豆弐石 本扶持壱人 女扶持壱人 諫元文五郎
一米五石 大豆弐石 右同断 土居三之丞
一米五石 大豆弐石 右同断 井原柳吉
一米五石 大豆弐石 右同断 飯田儀兵衛
一米五石 大豆弐石 右同断 和田大平
一米五石 大豆弐石 右同断 高倉十郎左衛門

一米四石 大豆弐石 本扶持壱人 原斉兵衛
一米五石 大豆弐石 本扶持壱人 女扶持壱人 足立夘一郎
一米五石 大豆弐石 右同断 太田半助
一米五石 大豆弐石 右同断 佐藤常次郎
一米五石 大豆弐石 右同断 筒井保太郎
一米四石 大豆弐石 本扶持壱人 原三弥
一米四石 大豆弐石 本扶持壱人 小出牧人
一米五石 大豆弐石 本扶持壱人 女扶持壱人 堤次郎右衛門
一米五石 大豆弐石 右同断 岩瀬謙吉
一米五石 大豆弐石 右同断 高橋文吉（異筆）「文」
一米五石 大豆弐石 右同断 久松軍蔵（異筆）「久松」
一米五石 大豆弐石 本扶持壱人 女扶持壱人 伊東秩作
一米五石 大豆弐石 右同断 阿部四郎
一米四石 大豆壱石 右同断 片山始
一米四石 大豆壱石 右同断 唐嶋宗治
一米四石 大豆壱石 右同断 杉本五郎
一米四石 大豆壱石 本扶持壱人 堤朔之丞

一米四石大豆壱石　本扶持壱人女扶持壱人
一米四石大豆壱石　右同断
一米四石大豆壱石　本扶持壱人
一米四石大豆壱石　本扶持壱人
米合百五拾七石
大豆合六拾石
扶持合六拾壱人
内　本扶持三拾四人　女扶持弐拾七人
人数三拾四人

原田文五郎
小雲文記
足立兼次
小畑喜平太

一米六石本扶持壱人女扶持壱人
一米六石右同断
一米六石右同断
一米六石右同断
一米六石右同断
一米六石右同断
一米六石本扶持壱人女扶持壱人
一米六石右同断
一米六石右同断
一米六石右同断

足軽小頭　同帆足繁蔵
同筒断井十太夫
同宿利手廻り小頭又七
小人木下登平
小人光増小頭三太夫
小人宿小頭惣助
小人嶋格田友八
同嶋断中嶋実右衛門
同断渡辺権六

一米五石右同断
一米五石右同断
一米五石右同断
一米四石五斗
一米四石五斗
米合七拾八石
扶持合廿八人
内　本扶持拾四人　女扶持拾四人
人数拾四人

船手小頭梶原要右衛門
同断中野夘平治
同望月弥七
矢倉坂甚助
同断格脇坂甚助
生山久兵衛

一米合三百四拾石扶持合百三拾六人
内　本扶持六拾八人　女扶持六拾八人
但壱人ニ付米五石扶持壱人女扶持壱人宛

嶋内蔵之丞組持筒弓
古後藤左衛門武石角蔵
足軽番筒弓杉本七蔵高倉安大夫
小川弥五左衛門宮坂兼次
原田亥助日隈雄蔵田坂佐八
緒方林五郎神下友次寺村忠兵衛
佐東藤二郎渡辺源六江田徳蔵
古後庄右衛門古後吉太夫茨木又市
日隈友蔵野上正平緒方八百次

井上熊太　若松丑蔵　森本助作
横山城助組持筒弓　内本扶持七拾四人
井上郡平　宮川忠助　梅田直助　女扶持七拾四人
阿部俊吾　但壱人ニ付米五合本扶持女扶持壱人宛
足軽番筒弓
中山為作　田坂四郎右衛門　宿理豊作　道具安右衛門　末吉浦平
衛藤善蔵　宿理嘉八　園田貞次　手廻り善右衛門　手廻り道具格万助
光増万之助　宿理健次　中嶋若次　治右衛門為吉本平
相場梅七　衛藤新右衛門　帆足兼次　陸尺貞平　折吉喜代次
森本貞蔵　長尾五助　宿理準次　藤吉庄七寅蔵
森本仙次　斉藤昇六　宿理喜助　次作次六作兵衛
朝山孫太郎組持筒弓
朝倉元次　田坂彦左衛門　阿部門之助
足軽番筒弓
沼口斧右衛門　安藤万平　帆足興蔵　厩岩太郎健六
井上半吾　小野勘六　田坂象助　豊吉忠吉三吉
嶋田猪吉　小野新吉　木下常吉　嘉平猪八源平
岡村介市　田坂諫吉　重見藤蔵　福蔵徳右衛門半七
谷要右衛門　山下源吉　阿部兵作　小人友作金平　九右衛門国蔵　市三郎
宿理勝吉　中村喜平次　財津惣太　善三郎辰平　茂七又六甚平
田代幾蔵　伴作伝吾善平
久平荒次仙平

人数六拾八人

一米合三百七拾石扶持合百四拾八人

藤左衛門　伝蔵　直次
勇平　介太郎　九市
甚吉　島太郎　忠左衛門
藤市　政吉　猪蔵
藤次　嘉吉　次兵衛
源次　利平　正三郎
要平　勝助　弥左衛門
次助　文七　助四郎
岩左衛門　吉五郎

人数七拾四人

一米合九拾九石扶持合四拾四人
内　本扶持弐拾弐人
女扶持弐拾弐人
但壱人ニ付米四石五斗本扶持壱人女扶持壱人宛

水主
嶋末忠兵衛　嶋末藤七　佐野源吉
嶋末平六　渡辺又三郎　林市右衛門
柳原今作　柳原藤三郎　阿部忠助
福田豊作　二宮正三郎　脇光次
手嶋利三郎　嶋末兵吉　福田吉兵衛
脇次兵衛　生山金蔵　橋本勘助

三宅作太郎　望月孫三郎　生山勘七
島岡喜八

人数弐拾弐人

一米三石本扶持弐人
但壱人ニ付米三石五斗本扶持壱人宛

門番
儀右衛門　半九郎

人数弐人

一米合拾石扶持合六人
内　本扶持三人
女扶持三人
但壱人ニ付米三石五斗本扶持壱人女扶持壱人宛

兼右衛門　儀作　勝吉

人数三人

一金五両給金
金壱両心附
金弐両道具料
本扶持弐人
本扶持壱人別段家守ニ付

定府大工
吉浜興四郎

一金九両本持扶弐人
女扶持壱人

足軽格
森谷甚次衛門

一金七両右同断

中間
金四郎

一金七両右同断

同
仙蔵

一本扶持壱人
金合三拾壱両
扶持合拾三人
内　本扶持拾人
　　女扶持三人

役料米

一高百石
一米五石内弐石心付
一本扶持壱人心付
一米五斗
一米五斗
一米四斗
一米四斗
一米四斗
一米四斗
一米四斗
一米四斗
一米四斗
一米四斗

清　吾

人数五人

江戸留主居　帆足源三郎
同添役　帆足真平
教授役　園田保
大会所奉行　原口等助
同断　江藤友太
大山奉行　佐久間権之進
町奉行　小幡兵馬
大会所役　伊藤惣兵衛
同断　吉田仲
同断　平松弥七郎
同断　高倉弥右衛門
同断　小野貞一
同断　御幡平輔

一米四斗
一米四斗
一米四斗
一米四斗
一米四斗
一米四斗
一米四斗
一米四斗
一米三斗
一米三斗
一米三斗
一米三斗
一米壱斗
一米壱斗
一米壱斗
一米壱斗
高百石
此米三拾石
米合拾四石

玖珠代官　原忠四郎
同断　財津清之丞
速見代官　井上左門
同断　原次郎作
有田代官　今村才次郎
同断　香見浩
作事奉行　本田志津馬
米会所目附　小野元五郎
扶持方　足立近蔵
筆者　猛野佐十郎
同断　原三弥
同断　阿部四郎
作事着頭　筒井十太夫
同断　古後藤左衛門
郷頭　嶋田友八
買使　江藤新右衛門

扶持合壱人

一本扶持七人
一本扶持七人
（異筆）
「扶持拾四人」

出入扶持

一本扶持三人　福嶋　宜将
一本扶持弐人　江戸嶋　田恒斉
一本扶持壱人　大坂成冨　井立節
一本扶持壱人　森町医師　武石元哲
一本扶持壱人　良峯院様御乳　ふで
一高百石　大坂　森本楢之助
一本扶持五人　同　森本半次郎
一本扶持弐人　同　河谷忠蔵
一本扶持壱人　大坂紀伊国屋　儀兵衛
一本扶持三人　同　近江屋熊七
一本扶持弐人　京都吉谷又左衛門
一本扶持弐人　大坂布屋甚九郎

人数弐拾九人
米会所掛
中嶋玄味太郎
同了戒三平
（異筆）
「合原栄一」
人数弐人

一本扶持壱人　同　日野屋三右衛門
一本扶持壱人　同　鍋屋七兵衛
一本扶持弐人　同　渡辺吉右衛門
一本扶持弐人　江戸相模屋五兵衛
一本扶持三人　同　高橋甚助
一本扶持五人　同　藤田佐兵衛
一本扶持三人　江戸堀部忠蔵
一本扶持弐人　同　高野周助
一本扶持壱人　同　越中屋新六
一本扶持壱人　同　才守頭吉
一本扶持三人　江州平八幡　徳善蔵
一本扶持三人　京都山口省五郎
一本扶持八人　日田山田半四郎
一本扶持弐人　同　山田小三郎
一本扶持弐人　同　山田為右衛門
一本扶持拾弐人　同　千原幸右衛門
一本扶持三人　同　千原雄四郎
一本扶持三人　同　長野源平
一本扶持弐人　同　田嶋禅助

一本扶持三人　同　広瀬源兵衛
一本扶持弐人　同　三松寛右衛門
一本扶持弐人　同　中村平太夫
一本扶持弐人　同　日限雄四郎
一本扶持弐人　湯布院桑屋嘉八郎
一本扶持弐人　同　幸屋重兵衛
一本扶持弐人　小国北里伝兵衛
一本扶持五人　原米屋幸右衛門
一本扶持壱人　霜見中之屋敷松川形平
一本扶持壱人　有田城内高倉源助
一俵数壱俵　森町荒木寛兵衛
一俵数壱俵　同　青野多七郎
高百石
此米三拾石
本扶持合百四人
俵数合五俵
此米壱石五斗
人数四拾三人

合力

一高百三拾石　久留島演次郎え
此物成三拾九石　内米弐拾六石大豆拾三石
一俵数六拾俵　養寿院え
此米拾八石
一俵数六拾俵　誠寿院え
此米拾八石
高百三拾石
此物成三拾九石
俵数合百弐拾俵
此米三拾六石
人数三人

江戸奥切府

一本扶持弐人　中白壱斗五升　黒米壱斗五升　老女ふき　於千世次　うら
一本扶持壱人　中白壱斗五升　上取米壱升五合　右同断　ま　す
一本扶持壱人右同断　誠寿院様次　ふ　て
一本扶持壱人右同断　茶之問格末　き　わ
一女扶持壱人　中白壱斗弐升　上取米壱升五合　か　め
一女扶持壱人右同断　誠寿院様茶之問格　と　よ

扶持合七人
内本扶持五人
女扶持弐人

森　休　息

人数六人

一本扶持弐人中白壱斗五升
黒米壱斗五升　於夏殿附老女代　つ
一本扶持弐人右同断　義若附例　ま
一本扶持壱人中白壱斗弐升　於夏殿附次　か
一本扶持壱人右同断　義若附次　み
一本扶持壱人中白壱斗弐升　於修殿附次　も
一本扶持壱人右同断　養寿院附次格　さ
一本扶持壱人中白壱斗弐升　茶之間　な
一女扶持壱人右同断　は　か
一女扶持壱人右同断　と　も
一女扶持壱人中白壱斗二升　た　か
一女扶持壱人右同断　末　い
扶持合拾三人　あ　ぐ
内本扶持八人　同
女扶持五人　か

人数拾壱人

知行高合弐千三百拾石
此物成七百六石
内米四百九拾五石六斗六升七合
大豆弐百拾石三斗三升三合
合　力
高百三拾石
此物成三拾九石
内　米弐拾六石
大豆拾三石
俵数合百弐拾俵
此米三拾六石
切米合千六百三拾九石五斗
内　米千三百九拾八石五斗
大豆弐百四拾壱石
米合拾五石
俵数合五俵
此米壱石五斗
都合石高弐千四百四拾六石
内　米千九百八拾壱石六斗六升七合
大豆四百六拾四石三斗三升三合
惣扶持合九百拾六人
内　本扶持六百九拾八人
女扶持弐百拾八人
金合三拾壱両

惣男女四百三拾人
右は九月十日十月十日十一月十五日
三度相定候通可相渡者也

伊予　靖通（黒印）（直径四、四㎝）

慶応三卯年九月

久留島　求　馬　殿
帆　足　源　三　郎　殿
宮　野　孫　一　殿
嶋　内　蔵　之　丞　殿
浅　川　六　助　殿
横　山　城　助　殿
森　本　楢　之　助　殿

（[redacted]・玖珠史談会事務局長）

増訂

豊後大友氏の研究

渡辺澄夫著　▨新版完成

謎の多い初代能直以来の大友氏の歴史に科学のメスを加えた初版に新たな論文を増補した著者二十余年間の研究の結晶。
〈初版御購読の方は、誤植、誤脱がありましたので、無料でお取り替えします。当社までお申し出ください〉

A5・定価　三、八〇〇円

源平の雄

緒方三郎惟栄

渡辺澄夫著　嫗嶽大明神の神裔と記された伝説的英雄惟栄を、歴史の世界に蘇生させた近来の名著。

B6・定価　一、五〇〇円

第一法規　九州支社
〒810 福岡市中央区大手門3-5-4　電(092)74-6060